

生徒の読書意欲につなぐ仕掛けづくり(展示)

実施日 令和6年度

対象 中学1年～3年

目的・ねらい

- 生徒にとってリラックスできる場として学校図書館をアピールし、生徒に学校図書館に対する親しみを持たせる。
- 絵本の表紙を見せて展示し、生徒が自然と本を開きたくなるように、読書のきっかけを作る。

学校図書館活用のポイント

- 学校司書と、図書主任(図書部顧問)・図書部が連携して行う。

実践内容	物品	留意点
〈提案・相談〉 2学期、学校図書館の本の見せ方を改善した。 勤務校の学校図書館は、1階の玄関横に位置し、生徒が立ち寄りやすい。実際、帰りに学校図書館に寄って帰る生徒が多い。しかし、学校図書館で話したり、自習をしたりするが、読書したり、本を借りたりすることは少ない。 そこで、生徒になじみのある絵本の表紙を見せて展示し、本を手に取りやすいように配架することにした。 勤務校は中学校ということもあり、なじみのある絵本自体が少ない。そこで1学期のタイミングで絵本を選書するように、学校司書が図書主任に提案した。そして、2学期に絵本をそろえ、本の表紙が見えるように展示した。 2学期、特に夏休み明けの頃は、生徒も久しぶりの学校生活に緊張して疲れ気味である。そのタイミングで絵本を配架するのがいいと考えた。		
〈準備〉 生徒になじみのある絵本や、ユーモアのある絵本、癒しの絵本などを選書し、1学期に購入し、2学期に学校図書館にそれらの本を準備する。	ブックスタンド 展示する本(別紙 図書リスト参照)	
〈実践〉 勤務校には、部活動があり、学校図書館運営をサポートする図書部がある。図書部では、本の貸し出しや書架整理、本の紹介カード作成、本の特集コーナー、掲示物やしおり作成など、学校図書館にまつわるさまざまなことに取り組んでいる。 学校司書は、初めに図書主任に本の配架について相談し、学校図書館のレイアウトと一緒に考え、本棚も移動させた。また、図書主任に、「中学校にこんな絵本を置いていいか…」と心配されたが、学校司書から、生徒が本に興味を持ち、気軽に楽しんで読んでみようとするきっかけが大切だということ		

を伝えた。 また、本のレイアウトを変更する時点で、学校司書は図書部にも伝えて、本の配架の方法を共有した。その後も、学校司書は、図書部の生徒に、なるべく本の表紙を見せて置く方法など、こまめに提案するようにした。 生徒がなじみのある絵本を展示 ● 4月、絵本『としょかんライオン』を、表紙を見せて展示した。 学校図書館カウンターの近くに『としょかんライオン』の絵本を展示しておく、初めて来館した生徒との会話のきっかけにもなった。 ● 2学期、【ユーモアのある絵本】や、【癒しのある絵本】の表紙を見せて展示した。 『バムとケロ』シリーズは、もともと英語版が勤務校に所蔵されていたので、英語版も一緒に並べて展示した。		
〈結果／児童生徒・教職員の反応〉 ● 絵本の表紙を見せて展示することで、生徒が自然と本を手取るようになった。 ● 中学1年生の生徒が、(『としょかんライオン』を手にとって)「この絵本、大好き。この絵本をお母さんも好きで、よく読んでもらった。」と話し、よく学校図書館に来るようになった。 ● 夏休み明けの2学期、中学3年生の生徒が、ふらっと学校図書館に来て、「緊張してしんどい。」と言っていたが、『うちにかえったガラゴ』の絵本を開いて、笑顔になっていた。 ● 中学2年生の生徒が、日本語版と英語版の絵本を比べて読んでいて、「絵も可愛いし、英語の勉強になる。シリーズで読んでみたい。」と話していた。 ● 「本が嫌い。難しいから読まない。小学校でも借りていない。」と言っていた中学1年生の生徒が、展示していた絵本を手を取っていた。「こんな絵本なら読んだら楽しい。」と言って、よく絵本の展示コーナーを見に来るようになった。 ● 先生から、「学校図書館が明るくなった。」と声をかけてもらった。		